

鏡川流域パートナーシップだより No.210 R7.4.28



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

鏡川から地方再生を考える！「川から始める地方再生」サミット開催！

4月23日(水)に、【著者来たる！第1回「川から始める地方再生」サミット@高知・鏡川】と題し、「川から始める地方再生」の著者・水谷要さんをお招きし、鏡川流域関係人口が集うイベントを開催しました！

水谷さんが代表を務める「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」は、リバーブランディング(川を起点に新しい経済効果を生み出し、地域の稼ぐ力と地域プロモーションを創造すること)を通じて、地方再生の取組を進めています。この取組の中で、水谷さんは、高知県の野根川で魚道の改修や商品開発を行ってきました。また、水谷さんの取組の記録や地方再生についての検討などを、著書「川から始める地方再生」に記しています。

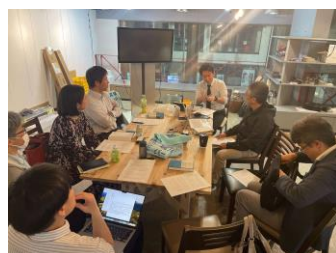


水谷さんは、毎週木曜夜の鏡川流域関係人口オンライン交流会の進行役・土佐山の釣り名人と知り合ったことをきっかけに、オンライン交流会にも参加して下さっていました。この交流会の中で、水谷さんに高知にお越しいただき対談するイベントの企画を話し合い、今回、実現に至りました。



イベントの開始前に、新エネルギー・環境政策課にて、水谷さんとの意見交換を行いました。

イベントには、オンライン交流会などを通じて日頃から関わりを深めてきた鏡川流域関係人口講座受講生など、総勢8名が集まりました！「川から始める地方再生」の内容について深掘りしながら、鏡川流域の自然環境の現状や関わり方について、意見を交わしました。



環境コンサルタントの業務を通じた関わりや、日頃の散歩や釣りを楽しむ場所としての関わりなど、各参加者の立場から、多様な場面で鏡川とつながっていることが再確認できました。

水谷さんからは、「川を共有資源」と考え、多くの地域文化や伝統を育んだ生業を思い起こし共有することが、現在求められる新しい公共の考え方ではないか」「地域独自の価値を共に考え活動し、地域を元気にする生命地域主義の中心にあるのが川である」「住民自身が地域を元気にしようというエネルギーも大切ではないか」といったお話がありました。人間も川も生態系の一部であることを忘れず、川と付き合い、向き合っていくことが、鏡川流域関係人口創出事業においても重要な視点ではないかと感じました。



水谷さんの取組は「ぼっちり」のスポットに登録されており、アプリを通じて多様な人の関わりを生み出しています！ぜひ一緒に盛り上げてください！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android